



### 情報提供する

母乳育児を支える温かい支援の輪を強化するための役割について 情報提供する



### 揺るぎないものとする

栄養、食糧安全保障、不平等解消の一環としての母乳育児を揺るぎないものとする



### 協働する

母乳育児を支える温かい支援の輪に沿った個人と団体で協働する



### 啓発する

変革を起こすため、支援する側とシステムの能力強化のための行動を啓発する



母乳は、子どもにぴったりの栄養を供給し、免疫学的なニーズにもしっかり応え、感染症の予防に役立ちます。



## 目次

はじめに	2
母乳育児の課題と必要なサポート	
産前のサポート (妊娠中/ 出産前)	4
出産 / 出生	6
産後ケア/ 産後6週間	8
継続支援	10
特別な状況、および災害時	12
温かい支援の輪における支援者の役割と教育・トレーニング	
保健医療従事者	15
地域社会の人々	20
温かい支援の輪のステップアップ	24



# INTRODUCTION

COVID-19のパンデミックと地域紛争により不平等が拡大・深刻化し、より多くの人々が食糧不安に陥っています。

母乳は、子どもにぴったりな栄養を供給し、免疫学的なニーズにもしっかり応え、感染症を予防するのに役立ちます。母子の置かれた環境に関係なく、母乳育児は、母親と子どもの絆を深め、生まれてすぐから乳児に食糧を安定供給できることで、家族全体の食糧の安全保障に貢献します。

COVID-19のパンデミックと地域紛争により、より多くの人々が食糧不足に陥り、不平等が拡大・深刻化しました。さらに、保健医療システムの能力の限界により、母乳育児支援が悪化しました。病気のせいで、母乳育児を支援するスタッフが不足し、他のスタッフの負担が大きくなり、トレーニングを受けていない他のスタッフに業務が移行されるようになりました。人と人との間に物理的な距離を置くという規則により、一部の親はスタッフと接触する機会が減り、その結果、スキルのある母乳育児カウンセリングを受ける機会が減り、十分な知識を得ることができなくなりました。COVID-19が疑われる場合、母親から赤ちゃんを引き離したり、母乳育児を控えさせるなど、エビデンスに基づかない政策を実施する国もありました。さらに、社会的な接触が制限されているため、地域の母乳育児ピアサポートグループの助けを必要としても、親がアクセスしにくくなりました。



母乳代用品企業（乳児用ミルクの会社）による標的型アウトリーチ（的を絞った接触）は、親の乳児栄養法の決定に影響を与えます。COVID-19に関する誤った情報を植え付け、より安全な選択肢として母乳代用品を提示するといった、母乳代用品企業によって横行するマーケティングは、親の恐怖心を利用して人工栄養に誘導しました。こうした母乳代用品企業の行為は、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」およびその後の世界保健総会決議（国際規準）に違反するものでした。また、母乳代用品企業が保健医療従事者への無償教育を提供することによって、保健医療システムの中での母乳育児支援が阻害されます。誤解を招く情報を提供し、保健医療従事者の態度に偏りを持たせ、母乳育児の確立を妨害しています。医療施設内での国際規準の遵守を徹底することで、保護者は独立した公平な情報を受け取ることができ、母乳代用品企業の手口に気づくことができます。

母乳育児を支援するには、さまざまな分野で多くの関係者の協働が必要です。女性が最適な母乳育児を行うためには、保健医療サービス、職場、地域社会からの支援が必要であり、支援の必要性は時間を経るごとに徐々に次の段階へと進んでいきます。こうした連鎖は「母乳育児を支える温かい支援の輪」と呼ばれています。温かい支援の輪に沿って活動するすべての関係者の能力を向上させ、高めるための教育が急務となっています。世界母乳育児週間 2022 は、この能力のステップアップに焦点を当てます。エビデンスに基づく国家政策に支えられた教育や既存のシステムの変革は、母乳育児に適した保健医療施設、支援的なコミュニティや職場の確保につながり、短期的にも長期的にも母乳育児率、栄養、健康を回復・向上させることができます。



# 母乳育児の課題と必要なサポート

## 産前のサポート (妊娠中/ 出産前)

親は母乳育児をするための準備が必要であり、妊娠中は特に重要です。しかし、親は新生児に母乳を与える必要性や準備する必要性を完全には理解していないかもしれません。



## 情報を提供するにあたっての課題

### 親への教育の優先順位の競合：

親は母乳育児など産後のことよりも、実際の出産に集中しがちである

妊娠中の人とそのパートナーが母乳育児の重要性とその方法について十分な情報を得られるようにするためのスタッフや医療従事者の取り組みが不足している

産前ケアにあたっているスタッフが仕事をするために十分なトレーニングを受けていないこともしばしばある



母乳育児の準備のためには親は産前ケアのルーチンとして妊娠初期から、母乳育児に関する教育と、今後のことを見据えた母乳育児カウンセリングを受ける必要があります。

## 親が知る必要のあること

- 母乳育児の重要性とその健康的、社会的、経済的な利点。
- 6か月間は母乳のみで育て、その後は補完食を与えながら2年以降まで母乳を与えることが推奨されていること。
- 陣痛の間や出産後にどうなるのか。
- 出産時の付き添い人を誰にするかなど、出産の計画を立てる。
- 母乳育児に関する悩み、迷信、思い込みへの回答。
- 授乳時の赤ちゃんの抱き方や吸いつき方、人形を使った練習など。
- 母乳を手で搾乳する方法とその有用性について。
- 職場復帰後に母乳育児を続けるにはどうしたらよいか。また、復帰後の時間、空間、サポートを求めるために、あらかじめ雇用主に相談する必要があること。

## 産前のサポートを充実させるには

- 母乳育児の準備の重要性を啓発する。
- 母乳育児の話題を産前健診のたびに組み入れ、妊娠初期・中期・後期のそれぞれの時期に適切な情報を提供し、利用可能なテクノロジーや（訳注：人形などの）教材を使った実践的なデモンストレーションを行い、親がもっと学ぶためのリンクや情報/リソースも提供する。
- 産前のサポートにあたるすべてのスタッフが、エビデンスに基づく最新の情報とカウンセリングを提供できるよう、トレーニングする。
- 親に、さらなる支援を提供できるコミュニティ・ネットワークを産前に紹介する。



## 出産/出生

出産中の医療介入は、母乳育児の開始と確立の両方を妨害する可能性があります。



## 出産時の課題

産科のサービスには、「母親にやさしいケア」方針がない場合が多く、また既存の方針を十分に実行していない場合もある

「赤ちゃんにやさしい病院運動 (BFHI)」の方針がない、またはその実施が不十分で、早期の肌と肌のふれあいが適切に行われず、母親と赤ちゃんの不必要な分離や、適切な時期に母乳育児を開始することへの支援が不足している可能性がある

助産師や看護師の人数の不足と、十分なトレーニングの不足

母乳育児をスムーズに開始するために妊娠中の女性は、出産時に「母親にやさしいケア」を必要としています。

すべての産科病棟は、出産時のケアの適切な支援について、エビデンスに基づく情報を提供する方針文書を必要としています。



## 「母親にやさしいケア」とは

- 静かで快適な環境、女性が希望する付き添いやドゥーラ、自由に動き回れること、薬剤の使用は最小限にすること、食べ物や飲み物を（制限されることなく）摂取できること、上体を起こす、しゃがむ、横向きになるなど女性自身が選んだ姿勢で出産できることで、薬剤に頼らない陣痛管理をすること。鎮痛剤は赤ちゃんを眠くさせ、乳房を吸う意欲を減弱させ、母乳育児の開始を遅らせる可能性がある。
- 出産直後の肌と肌のふれあいや母乳育児の早期開始（器械分娩、帝王切開分娩の場合も同様）



## 出産時のサポートを充実させるには

- 産科施設内での「母親にやさしいケア」とBFHIの方針を示し資金を投じ実施することを提唱する。
- 母親にやさしい方針とBFHIを母子保健のケアの質の基準に組み込み、出産時のサービスが確実に母乳育児をサポートするようにする。
- 保健医療従事者が、「母親にやさしいケア」を行い、出産直後の肌と肌のふれあいを実施し、早期に母乳育児を開始する支援をできるような能力を確実に持てるようにする。



## 産後ケア／産後6週間

お母さんと赤ちゃんが分娩室を出てから、お母さんのための産後ケアと赤ちゃんのためのケアが始まります。ケアは通常、病院内のスタッフが数時間から数日間行い、退院後は他のスタッフが地域サービスで行い、産後健診まで6週間継続する必要があります。



### 産後期の課題

スタッフが母乳育児の実用的な支援提供のためのトレーニングを受けていない可能性がある

スタッフがスキルを持っていても、短い入院期間では、最初の1～2日に、母親に効果的に母乳育児支援をするための十分な時間がないことがある

その後、母親と赤ちゃんが自宅にいる1～2週間の間に適切なガイダンスが行われないと、母親は必要なスキルを身につけられず、母乳育児が確立されない可能性がある  
親が乳児用ミルクを与えることを勧められたり、ミルクをあげることを選んだりして、赤ちゃんが効果的な母乳の飲み方を学べない可能性がある



母乳育児を初期に確立するためには、母乳育児に関するカウンセリングと実践的な支援が産科施設でも自宅でも必要です。

### 産後6週間のサポートを充実させるには

- 助産師やその他の保健医療従事者、地域の母乳育児カウンセラーをトレーニングし、分娩後から産後6週間までの期間に母乳育児を確立するための実践的なガイダンスを母親に提供する。
- 保健医療従事者は、母親が赤ちゃんを胸に抱いてしっかりと吸着できるようにし、欲しがるときに欲しがらだけ授乳する方法を説明する能力が求められる。
- 保健医療従事者は、母親に母乳のしぼり方と、どのような場面でそれが役に立つかを教えることができる必要がある。
- また、適切な母乳育児支援や、必要な場合は追加の支援が受けられる場所を母親に知らせるべきである。



## 継続支援

産後、母乳だけで育てる割合や母乳育児継続の割合が著しく低下することがあります。



### 継続支援の課題

2年以上母乳育児を続けることの大切さについて、医療従事者や地域社会全般の認識不足

父親/パートナー、大家族、地域社会からのサポートが得られないと、母親はやる気を失い、必要な精神的・身体的サポートを受けられなくなることもある

母親が十分な出産・育児休業を取れず、心の準備ができないうちに仕事に復帰しなければならないこと

母乳育児を応援しない、あるいは母乳育児に必要な時間や場所を提供しない職場

母乳育児を続けながら適切な時期に補完食を始めることについての実践的な知識の不足



母乳育児を継続させるためには、親は、少なくとも1年間、可能ならそれ以上の期間、**母乳育児カウンセリング**が受けられる支援を必要としています。そのためには、家族に適切な保健センター、クリニックを紹介し、母乳育児カウンセラーやピアサポート・グループにつなげることができます。



### 継続支援を充実させるには

- 予防接種や乳幼児健診などの受診時、乳幼児栄養の相談や医療ケアの時など、保健と地域社会のサービスの中に**母乳育児カウンセリング**を含むよう提唱する。
- どこに行っても、6か月間は母乳のみで育て、補完食を与えながら2年以上は母乳育児を続けるように母親が**励ましてもらえるようにする**。また、母乳育児の困難、乳児が泣いたり機嫌が悪くなったりした場合の対処法、母乳代用品を不必要に使用しないことなどについてカウンセリングを受けることができる。
- **父親/パートナー**、その他の家族も一緒に相談を受けることができる。父親などの家族は、**母親が母乳育児に専念できるように、母親を支え、励まし、家事を引き受けるという役割を果たす必要がある**。
- **母乳育児カウンセラーやピアサポートグループ**に家族を紹介し、医療制度以外のさらなる支援を受けるようにする。カウンセラーとサポートグループがトレーニングを受け、母乳育児とそれを支援する方法に関する最新の情報を提供できるようにする。
- 女性とそのパートナーは、母乳育児のために理想的には6か月間の**有給の出産・育児休業**が必要。母親が職場に戻らなければならない場合、職場に授乳室・搾乳室があれば、女性は快適に母乳をしぼることができる。少なくとも最初の6か月間は、フレックスタイム制が有効。
- 地域や社会全体が、**母乳育児が当たり前に行える社会と母乳育児にやさしい環境**を提唱する必要がある。

## 特別な状況や災害時



母乳育児を妨げる特別な状況として、次のような場合があります。

- 早産児
- 在胎期間相当の体格よりかなり小さく生まれた新生児
- 母親の糖尿病
- 赤ちゃんに低血糖のリスクがある
- 母子分離
- 母親が病気である、または母乳育児が禁忌とされる薬を服用している
- 災害または危機的状況により、母親が母乳をあげることができなくなる



特別な状況下で母乳育児を確立し維持するためには、親は乳児栄養にさらなる支援とサポートが必要です。母乳育児は、災害時やその他の特別な状況下で命を救うことができます。災害時には母乳で育てられている児と母乳を飲んでいない児の両方の栄養ニーズとケアに注意を払う必要があります。

**優先順位**は、乳児の母親のしぼった母乳、健康な他の女性からの母乳や母乳バンクからの母乳、乳児用ミルクなどの母乳代用品の順で、コップで与えます。これらの選択肢は、文化的背景や母親が受け入れやすいかどうか、サービスがあるかどうかに基づいて、情報提供されなければなりません。

## 特殊な状況下でのサポートを改善させるには

- 必要なときにドナーミルクを提供するための母乳バンクを設立する。
- 早産や低出生体重児の母乳育児のためのカンガルー・マザー・ケア（KMC）を実践する。
- 適切な場合には、母乳分泌復帰と母親以外の女性からの直接授乳を奨励する。

## 災害時のサポートを充実させるには

- 乳幼児栄養支援カウンセリングの要点、『災害時における乳幼児の栄養：災害救援スタッフと管理者のための活動の手引き』、「国際規準」について、関連スタッフにオリエンテーションとトレーニングを行う。
- 母乳育児のカウンセリングのスキルのある人々や支援先、翻訳のリストを作成する。
- 乳幼児栄養支援と母乳育児・人工栄養の計画、脆弱な子どもの特定と管理に関する計画を作成する。
- 災害時の母乳代用品、その他の乳製品、哺乳のための器材の寄付の防止と管理のための計画を立てる。



# 温かい支援の輪における 支援者の役割と教育・ トレーニング

## 保健医療従事者

- ・ 母乳育児カウンセラー
- ・ 母乳育児サポートグループ
- ・ 国際認定ラクテーション・コンサルタント
- ・ 地域の保健医療従事者・保健師
- ・ ドゥーラ・出産を介助する伝統的産婆
- ・ 家庭医・かかりつけ医
- ・ 助産師・看護師
- ・ 栄養士・管理栄養士
- ・ 産科医
- ・ 小児科医
- ・ 保健医療システムの政策立案者 / 保健医療行政の管理者

## 地域社会の人々

- ・ 研究者 / 教育者
- ・ コミュニティの人々
- ・ 雇用主や労働組合
- ・ 環境保護を唱える人々
- ・ 宗教関係者（寺・神社・教会などのグループ）
- ・ 父親/パートナー
- ・ 祖父母や家族
- ・ メディア
- ・ 若者

## 保健医療従事者

保健医療従事者は、母乳育児支援において欠かせない役割を担っています。そのため一貫性があり適切な科学的根拠に基づいた教育が必要です。臨床に出る前の**教育**と臨床における定期的な**トレーニング**の両方が提供されなければなりません。また、保健医療従事者をトレーニングする**トレーナーのための教育プログラム**があると、持続可能なプログラムになる助けになります。

保健医療従事者は、保健医療施設における（母親と赤ちゃんにやさしい）方針が遂行できるように、「母親にやさしいケア」とBFHIを理解する必要があります。また、**母乳育児カウンセリングの具体的な能力**を養う必要があります。「**国際規準**」に書かれている**保健医療従事者の責務を果たす**ため「国際規準」の**トレーニングも**欠かせません。また、**文化的慣習や信じられていること**を知り、それがどのように母乳育児に影響を与えているのかも知る必要があります。



担い手	その役割と必要な教育
<p>母乳育児カウンセラー</p> 	<p>母乳育児カウンセラーは、母親の母乳育児を支援するため特別にトレーニングを受けた保健医療従事者もしくは地域の働き手である。保健医療システム内の担い手であるかもしれないし、保健医療サービスと協力して活動することの多い地域団体や母乳育児サポートグループの中の担い手であるかもしれない。母乳育児カウンセラーのトレーニングには異なる基準があり、ところによって異なる肩書きを持つこともある。</p>
<p>母乳育児サポートグループ</p> 	<p>母乳育児サポートグループは、母親支援グループやピアサポートグループと呼ばれることもあり、地域の家族のために母乳育児を継続支援する重要な役割を持っている。女性とその家族にタイムリーで正確な情報を提供し、最適な母乳育児を促進するための実用的かつ精神的な支援を行うことができる。母乳育児支援グループはしばしば地域の保健医療サービスと協力し、困難な状況にある母親を紹介したり、継続支援のための紹介を受けたりする。母乳育児によくある困難を克服するための教育や情報源、家族を対面やオンラインで支援するための基本的なカウンセリングスキルを必要とする。</p>
<p>(国際)認定ラクテーション・コンサルタント</p> 	<p><u>(国際)認定ラクテーション・コンサルタント</u>は、母乳育児に関する臨床的な支援を専門とした保健医療専門家である。保健医療サービスの中で働いていることもあるし、地域で働いていて紹介を受けて役立つサービスを提供することもある。母乳育児中の母親と乳児が出合うあらゆる困難や課題を評価し、それを解決するためのツールと技術を知るようにトレーニングされている。</p>

担い手	その役割と必要な教育
<p>地域の保健医療従事者・保健師</p> 	<p>地域の保健医療従事者・保健師は、社会から疎外された人々やリスクの高い人々の母乳育児を支援し、地域社会の家族に実際的な支援を提供する上で重要な役割を果たすことができる。よくある困難に対処するために、母乳育児の教育と基本的なカウンセリングスキルが必要である。また、必要な場合には医療専門家やよりスキルの高い母乳育児カウンセラーを紹介することも大切である。さらに、母乳育児を応援し、よくある懸念を晴らす役割も担える。</p>
<p>ドゥーラ・出産を介助する伝統的産婆</p> 	<p>ドゥーラ・出産を介助する伝統的産婆は、妊娠中、陣痛の間、出産時、産後の女性/親をサポートする。「母親にやさしいケア」と早期の母乳育児支援に関する基本的な教育を受けている必要がある。また、誤った情報や有害な文化的慣習に対抗して、適切な情報を伝えるという役割も担える。</p>
<p>家庭医・かかりつけ医</p> 	<p>女性と子どもを診るすべての医師は、母乳育児の価値、人工栄養のリスク、そして医師自身が母乳育児に与える影響を理解する必要がある。医師は、基本的な母乳育児のサポートと、母親が病気になった場合の安全な治療、母乳を介して赤ちゃんに影響を与える可能性のある薬を避けることができなければならない。また、必要な場合に、経験豊富な援助が受けられるには、だれに紹介したらいいかを知っていることも必要である。</p>

担い手	その役割と必要な教育
助産師・看護師 	<p>母親と赤ちゃんのケアをする<b>助産師</b>や看護師は、女性が乳児への栄養法について決断し、母乳育児の経験がうまくいかどうか<b>強力な影響力</b>を持っている。この職種の<b>教育</b>に必要なものは、母乳育児を始めてうまくやっていくために親が準備しておくこと、出産時の母親にやさしいケア、出産と母乳育児の過程に関するカウンセリングである。カウンセリングのスキルは、この職種の教育の中で必須のものである。</p>
栄養士・管理栄養士 	<p><b>栄養士</b>や<b>管理栄養士</b>は、母乳と乳児用ミルクの組成の違いや、母親の食生活が母乳に与える影響について理解する必要がある。職務上の<b>アセスメント</b>に母乳育児も含める必要がある。母乳代用品の不必要な使用をやめさせ、必要に応じて母乳育児の専門家に母親を紹介する必要がある。</p>
産科医 	<p>産科医は「<b>母親にやさしいケア</b>」と母乳育児に関して重要な役割を担っている。帝王切開や器械分娩、麻酔の副作用を理解し、最小限に抑える<b>必要</b>がある。産後すぐの肌と肌のふれあいと母乳育児の1時間以内の開始を可能にする責任を負っている。帝王切開後は特に重要である。そして産後の母親が母乳育児の支援を受けられるようにする必要がある。</p>

担い手	その役割と必要な教育
小児科医 	<p><b>小児科医</b>は、自分たちのアドバイスが乳児栄養法の選択に関して、強い影響力を持っていることを自覚する必要がある。母乳育児の価値、乳児用ミルクの不適切な使用のリスクと不必要な使用を避けることの大切さを理解する必要がある。母乳育児支援の基本的なスキルと、<b>病気の場合の母乳育児支援</b>について知っておく必要がある。</p>
保健医療システムの政策立案者/ 保健医療行政の管理者 	<p><b>政策立案者</b>は、保健医療施設がBFHIと母乳育児支援とカウンセリングに関して、あらゆるレベルで十分なトレーニングを受けた医療従事者を確保できるようにする必要がある。保健サービス政策として、関連する教育やトレーニングに十分な予算が割り当てられなければならない。母乳代用品の製造企業・販売業者から教育や資金の提供を受けると、利益相反が発生し教育の中のメッセージが歪んでしまう。</p>





## 地域社会の人々

地域の人々は、世界母乳育児週間のような、母乳育児を保護、促進、支援するための国内および国際的なアドボカシーとプログラムを支援する重要な役割を担っています。

乳児用ミルクの誤った情報を提供し非倫理的なプロモーションを行う母乳代用品企業の手口について認識する必要があります。

地域の人々も、母乳育児を支援する方法を理解するための教育やトレーニングを必要としています。母乳育児を支援するために保健医療従事者と協力することができます。そして、親が退院してから、母乳育児支援の格差を埋めることができます。

地域社会の人々

担い手

その役割と必要な教育

研究者/教育者



さまざまな分野の研究者・教育者は、最適な乳児栄養のあり方について、また、最適とは言えない実践の影響について、研究・教育する上で重要な役割を担っている。保健医療専門家、保健医療従事者、ボランティアや小中学生や高校生の教育やトレーニングに貢献することができる。学部課程のカリキュラムに乳児栄養を組み込むよう提唱することができる。

コミュニティの人々



コミュニティの人々は、個人として、または特定のコミュニティのグループで、母乳育児を促進する上で重要な役割を担っている。地域社会全体が、母乳育児の価値と女性が直面する課題を理解する必要がある。共に、政策の変更と様々な状況にある女性への支援の提供を提唱することができる。

雇用主と労働組合



雇用主と労働組合は、職場における母乳育児にやさしい環境の価値を知る必要がある。これには、雇用主または公的資金で提供される有給の出産・育児休業、育児時間（授乳や搾乳のための時間）、授乳または搾乳のための職場の設備が含まれる。

担い手	その役割と必要な教育
<p>環境保護を唱える人々</p> 	<p>環境保護を唱える人々には、動物の乳の加工や包装の必要性を減らせるので、母乳で育てることは地球の健康に貢献するとアピールすることができる。</p>
<p>宗教団体</p> 	<p>宗教団体（神社、寺院、教会など）は、それぞれのコミュニティで子どもを持った親に対する教育や支援を行うことができる。それぞれの宗教の指導者は、自分たちの集会で母乳育児を支援できるように、母乳育児が乳児とその家族のために価値があることについての情報を必要としている。</p>
<p>父親/パートナー</p> 	<p>母乳育児をする母親をサポートするためには、父親やパートナーの存在が重要である。母乳育児の利点、実際に母親をどう援助するかの方法を知る必要がある。また、母親を休ませる目的で乳児用ミルクを使用することは推奨されていないということも知る必要がある。</p>

担い手	その役割と必要な教育
<p>祖父母や家族</p> 	<p>祖父母やその他の家族は、特に家事を手伝ってくれる重要な存在である。母乳育児に関する最新の教育に参加し、保健医療専門家が母親に対して伝える推奨を支援し、母乳育児を妨げる文化的慣習を回避するのを助ける必要がある。</p>
<p>メディア</p> 	<p>マスメディアとソーシャルメディアは、専門家と協力して偏りのない適正な情報を伝えることで、母乳育児を保護し支援することができる。乳児用ミルクのプロモーションや非倫理的なマーケティングが母乳育児に与える影響について知らされ、メディアを通じて母乳育児をスタンダードとして扱うことによって母乳育児を促進するよう奨励される必要がある。</p>
<p>若者</p> 	<p>若者は、革新的なアプローチを用いて社会規範を変える力を持っている。したがって、母乳育児を可能にする環境を提唱する上で積極的な役割を果たすことができる。性と生殖に関する健康の一部として母乳育児について、学校や保健医療サービスから教育を受ける必要がある。</p>

# 温かい支援の輪のステップアップ



母乳育児の準備のためには親は保健医療と地域社会の両方から教育と今後のことを見据えた母乳育児カウンセリングを受ける必要があります。

保健医療従事者は地域社会の人々と協力し、親が産前に一貫した情報を受け取れるようにすることができます。



母乳育児の開始のためには、出産時の「母親にやさしいケア」と、適切な支援による、出産直後の肌と肌のふれあいが必要です。

臨床に出る前の教育や臨床に入ってから研修で、保健医療従事者は支援のための能力を取得しておく必要があります。



産後の母乳育児の確立のためには産科施設においても退院後においても、母乳育児カウンセリングを受けられるようにしなければなりません。

この大切な時期に母乳育児カウンセリングの継続性と一貫性を確保するためには、保健医療システムと地域社会のさまざまな人々の間で、緊密なコミュニケーションが必要とされています。



母乳育児の継続のためには親は少なくとも最初の1年間、可能であればそれ以上、母乳育児カウンセリングを受ける必要があります。

保健医療従事者と地域社会の人々は、温かい支援の輪に沿って、自分たちの提供するサービスや、必要なときに紹介する先で、継続して母乳育児カウンセリングが受けられるように調整する必要があります。



母乳育児の保護のためには温かい支援の輪のすべての人々は、母乳代用品や哺乳びんの製造・販売業者の商業的影響を受けずにいる必要があります。

温かい支援の輪のすべての人々は、親が公平に情報を得た上で決断できるように、「国際規準」の中の責務について教育を受けなければなりません。



母乳育児支援を充実させ、グローバルな母乳育児の到達目標を達成するために、温かい支援の輪のすべての関係者の能力を強化する必要があります。

政府や意思決定者は、母乳育児のための教育や支援に投資し、赤ちゃんのいる家庭が母乳育児を可能にする環境を整える必要があります。

## 謝辞

### WABA would like to thank the following:

- Contributors : Alison Stuebe, Carol Williams, Charlotte Scherzinger, Decalie Brown,  
Elieen Rouw, Felicity Savage, Kathy Parry, Pong Kwai Meng, Prashant Gangal,  
Sandra Lang and Zaharah Sulaiman
- Reviewers : Allesandro Iellamo, Fatmata Fatima Sesay, Hiroko Hongo and team from LLLI,  
Jennifer Cashin, JP Dadhich, Julie Smith, Khalid Iqbal, Larry Grummer-Strawn,  
Lisa Mandell, Mackenzie Mayo, Marina Rea, Maryse Arendt, Mimi Maza, Mona Alsumaie,  
Rafael Pérez-Escamilla, Rufaro Madzima and Rukshana Haider
- Editorial Team : Amal Omer-Salim, Thinaganan Letchimanan, Chuah Pei Ching
- Design & Layout : Chuah Pei Ching
- Advisor : Felicity Savage
- Designer : C-Square Sdn Bhd

日本語翻訳 母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)  
<https://bonyuikuji.net> 2022年8月

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。

〈理事〉 [●は翻訳担当]

●多田香苗 (代表)、稲築信子、入部博子、江田明日香、奥起久子、小野田美穂江、國枝まこ、小竹広子、●潮尾智子、潮川雅史、田中奈美、西垣敏江、西田真奈美、入道聡子、萩原有希子、長谷川万由美、●弓地千里、●本郷寛子、三浦孝子、森あさよ、涌谷桐子、●柳澤美香、吉澤志麻、渡邉和香、渡辺孝紀、和田友香  
BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

著作権について : WABAは世界母乳育児週間のロゴとキャンペーンの教材に関して、ベルヌ条約《国際的な著作権保護に関する条約》の元にすべての法的権利と知的財産権は、内容的にも文脈においても関連付けにおいても、WABAの名誉を直接・間接的に傷つけるような方法で使うことを禁じます。商業的用途で使ったり、改変したりする場合は事前に書面での同意書が必要です。(メール: [wba@waba.org.my](mailto:wba@waba.org.my)) ロゴと教材は、母乳代用品や関連用品、例えば哺乳びん、人工乳首・補完食を製造、販売、流通している企業が協賛、協力、主催をしているいかなるイベントでも使うことはできません。詳しくは FAQ (よくある質問) [www.worldbreastfeedingweek.org](http://www.worldbreastfeedingweek.org)を参照ください。



世界母乳育児行動連盟 (WABA) は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づき、世界中の母乳育児の保護・促進・支援をしている個人と団体のグローバルなネットワークです。WABAは国連児童基金 (UNICEF) の諮問資格を有し、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の特殊協議資格をもつNGOです。WABAは毎年世界母乳育児週間キャンペーンをコーディネートしています。

WABA, PO Box 1200 10850 Penang, Malaysia

電話: 60-4-658 4816 | ファクス: 60-4-657 2655 | 電子メール: [wba@waba.org.my](mailto:wba@waba.org.my) | Web: [www.worldbreastfeedingweek.org](http://www.worldbreastfeedingweek.org)